



令和2年度

11月人権一口講座



人権一口講座

「心の成長のため」

朝の通勤路は、毎日渋滞する。「あー、こんな時間だ。急いで出かけないと！」と毎日あせる。通勤路は大きな幹線道路から1本横に入った小道である。その小道を通る時に決まって黄色のスクールバスを見かける。私の「黄色」のイメージは「幸せ」なので、いつもバスを見ると笑顔になる。

ある朝、渋滞の車列の中で、私の車が大きな鳥居の横で止まった。助手席の窓から見えた風景が、私の幼い時の記憶を思い出させた。

その日見た風景は、歳は3歳くらいだろうか、幼い男の子がスクールバスを待っていたところ、保護者の手を離して鳥居の下にある御堂に近づき、その小さな手を合わせていた。

その様子を見て、心の中で言葉が浮かんだ。「まんまいさんあーた(※)」である。祖母と一緒に家の仏壇に手を合わせていた幼少期を思い出した。

「小さい手を合わせていて、かわいいな。」と思っていると、その子の後ろから母親と思われる方が御堂に近づき、手を合わせられた。どのような言葉をつぶやいて何を思っていたのだろう。勝手に私は想像してみた。

「今日もいちにち、園でこの子が楽しく過ごせますように。ケガなどしませんように。そして家族皆が事故なく過ごせますように。」

手を合わせる仕草は、よく見かける姿なのだが、なんだかちよつとジーンとしてしまった。無理強いされるでもない自然の姿に。手を合わせる行為は、きっと大人の誰かから教わったことだろう。それを体得し自然と手を合わせたと思った。

子どもは感受性が高いもので、それだから影響も受けやすい。周りの大人がしていることを見聞きしているうちに覚えてしまいます。良かれ悪しかれ周りのものすべてが「手本」となっていくのです。

今の世の中、ほんとの話なのか嘘なのか、デマやうわさ話が飛び交う時代です。子どもたちがうそやデマ、うわさを聞いて信じ込み、人を攻撃したり人を差別したりするような事になるのは怖いのです。

そう考える時、周りで生きる大人に「良い手本」となる行いを自然にたくさん示してもらおうことが、子どもの心の成長の為にはしなないかと思うのです。

(※お祈りの言葉は地域によって異なります)

〔熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」令和2年度11月号より〕

短いメッセージ

たった一言が
たった一言が

人の心を傷つける
人の心を温める

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会 人権カレンダー- 文徳中学校3年 松本菜々美さん(令和元年度作品より)